「妖怪図鑑花屋敷徘徊」実施レポート

・実施日時　　2025 年 1 月 8 日(水)

・実施場所　　浅草花やしき

・事業概要及び入場者数等の実績報告
台東区を形作る都市基盤の多くは、江戸時代に文化、娯楽が発展したことから盛場が形成されたことにルーツがあります。その中でも妖怪は浮世絵などによって大流行し、都市の発展を支えてきました。妖怪の存在はその時代に説明のつかない未知の現象や出来事から生まれ、その事を畏れるだけではなく、想像やロマンを膨らませ、日本独自の妖怪文化として根ざしてきたのです。「妖怪図鑑花屋敷徘徊」では、妖怪の世界を実際に生身の人間で創り上げるという試みを作品にしたいと考えました。姿形だけではなく、国内外にて活躍するアーティスト達のサイトスペシフィックな妖怪パフォーマンスによって、様々な特色や表現が加わるのが見所です。妖怪を描きつつ、人間と表現の多様性をテーマとした本格的な芸術鑑賞として、子供から大人まで、また海外のお客様といった幅広い層にも楽しんでいただけるプログラムとなります。
また、通常は遊園地として運営している場所を、全く違うパフォーマンスという用途で使用することで、劇場や美術館という固有の場所に拘らない作品創りの指針を組み立て“場所”×“ アート”の可能性を探り、その地域の新しい魅力を発見、発信。域地住民に向けて本格的なアートを楽しみながら触れられる機会を提供し、新たな人々の流れや繋がりを生み出します。またアーティストにとっても特異性のあるこの機会を通じて芸術的視野を拡げることが出来ました。

・入場者数
前売一般 66 名、当日一般 19 名
前売高校生以下 16 名、当日高校生以下 5 名
未就学児 6 名
招待者 10 名
合計 122 名

・取材等を受けたメディア等
PR TIMES(300 件のメディアに拡散、64 件のメディアに転載)
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000154673.html

・事業の反響
本番当日は会場の浅草花やしきに、地域住民の子ども達、親子連れを始めとするお客様に多く来場いただき、当初想定していた約 1.5 倍ものご来場者数となりました。またＳＮＳなどで多くの方が拡散いただくなど、盛り上がり大好評でした。「面白かった、またやって欲しい。」「花やしきをこのように使ってパフォーマンスするのが斬新。」「アーティスト達の豪華さと花やしきと妖怪の組み合わせが良い。」などの声が多かったです。普段は劇場に足を運ばないお客様に関しましても今回をきっかけに多くお越しいただいたとのことでした。
私達アーティストも通常の作品創りとはまた違い、妖怪に扮したエンタメ性の高い作品と、花やしきの組み合わせは、とても新鮮で楽しく、良き経験となりました。

・事業実施後の感想
妖怪図鑑は全国様々な場所で上演し、今回で 4 回目の台東区では浅草花やしきを会場としました。限られた場所であることと、常設ステージもありましたので、今までとは比較的スムーズな進行で作品を上演することが出来ました。会場のイルミネーションが美しいのと、一部アトラクションに乗って踊ることも出来たので会場の特色も生かしやすかったです。
新演出としては、館内アナウンスを妖怪全員で吹き込んだものを利用したことと、園内自由周遊の際に妖怪に託された 1 文字を集めて、配布する開演おふだに埋めていくとメッセージが浮かび上がり、これを合言葉にメインパフォーマンスが始まるという流れにも挑戦いたしました。自由周遊にも目的を持たせることでゲーム性を加え、自由周遊とメインパフォーマンスの繋がりを持たせることで作品としてのまとまりを作れたのではないかなと思います。

・クレジット
台東区芸術文化支援制度対象企画「妖怪図鑑花屋敷徘徊」
演出：山本　裕
出演：伊藤キム(がしゃどくろ)、カナキティ(雪女)、川村真奈(ろくろ首)、川村美紀子(鬼)、輿一朗(子泣きじじい)、船木こころ(九尾の狐)、山之口理香子(ねこ娘)、山本　裕(あかなめ)、米澤一平(天狗)、若羽幸平(笑い般若)
宣伝美術：陶山ゆつき
記録写真：manimanium、金子愛帆
記録映像：Hiroki Konno
主催：山本　裕＆Honey→B
協力：一般社団法人パフォーミングアーツ協会
※令和 6 年度台東区芸術文化支援制度対象企画

・記録写真